

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念を掲げ、出勤の際唱和を行い利用者のその人らしく暮らし続けられるよう支援を図っている	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日理念の唱和を業務開始とともにやっている、又毎週1回全職員が集まり、組織の理念、その為の実践等を発表し合い、お互いを向上させている	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議の活用をはかり、その中で活動報告や事故報告などをオープン化して相互理解と協力をお願いしている	
2.地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている	併設の事業所等利用されている利用者の方達に声かけ合ったり、立ち寄ってもらったりと、日常的な付き合いができるよう努めている	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域行事参加できている。例えば小・中学校・他地域の運動会(石成地区)、文化祭、夏祭り等	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	同法人は介護保険事業以外にも、生きがい支援やパワーリハビリ参加後のサポートを行っている。又台風時には施設を開放し希望者には送迎、食事も提供している。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義を理解し、評価を活かし、できることからひとつずつ改善を図っている		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の会議を実施し、利用者やサービスの実際評価への取り組み状況等について報告や、話し合いを行い、意見等サービスの向上に活かしている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者らと運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	併設事業所職員代表による行き来する機会があり、月1回の在宅会議からの、情報提供により、サービスの質の向上に取り組んでいる		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	朝倉介護保険事業者協議会の中でセミナーに積極的に参加している		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	朝倉介護保険事業者協議会によるスタッフセミナー等に参加し、学ぶ機会を持ち、参加した者が、グループホーム研修にて報告し、防止につなげている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだ後、解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、説明を行い、利用者や家族に不明・疑問点を伺い、その点に関しては十分な説明を行い、理解・納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で伺っている。法人全体に第三者委員会をもっているため開催時に巡視を受け、委員の意見・総括を全員で共有している		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や面会少ない家族に対しては個々にあわせて報告をしている。又個々の面会簿（ふれあい通信）活用。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見が他部署の職員や地域から寄せられると施設在宅会議でオープン化し、その場で解決出来る様取りくんでいる		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年2月には翌年度の事業計画書を職員達で作るようにしている。年2回、管理者は全職員と個別に面談し、悩みや仕事の内容を話し合い、事業計画に活かすようにしている。又提案書の様式は改善できれば評価するようにしている		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化・要望を早めに把握することに努め、柔軟な対応ができるよう調整を図っている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職者の補充や本人の異動希望以外は、現在までは異動していない、最大限の注意を払いながらマンネリを防ぐ為に、少しずつの異動ははかっていきたい		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集は皆平等にしている(選べる状況にもない) 毎月の勤務表を管理者が作成することで公平な業務分担をしている。社会参加や自己実現が出来る様、有休取得は100%に近い		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝倉介護保険事業者協議会、スタッフセミナー参加等により、研修した事をもとに、グループホーム研修会で、職員の教育、啓発を図っている		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回は全職員研修会、及び職種研修会をして育成に努めている。新人については、6ヶ月間同一担当者が育成しチェックと確認で、レベルの向上を図っている		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	朝倉介護保険事業者協議会会員との交流 同法人内の4施設の交流		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	社員親睦旅行、食事会、など法人で取りくんでいる 昼休み等 休憩時のコーヒー無料サービス 休憩室の整備。 法人がソエルクラブ(福利厚生組織)に年会費、年間職員一人万円の会費を負担しているの、観劇や記念品の贈与等の選択メニューを選べるようになっている		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の自己評価表、毎月1回提出により個々の実績や状況を把握し、各自が向上心を持って働ける様努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	言葉できちっと伝達できる利用者もいれば話があちこち飛んでしまったり、つじつまが合わず会話が成立しない利用者もおられる。同じ目線にて対話し、充分話を聴いて、その表情等からも感じとるようにしている		
26	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	十分に御家族からのお話を伺い、ケアの中で活かせるように努める		
27	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」ま ず必要としている支援を見極め、他のサービス 利用も含めた対応に努めている	今、何を必要とされているのか、職員間でも話し合っ て対応に努める		
28	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用 するために、サービスをいきなり開始するの ではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気 に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工 夫をしている	アセスメント表を参考にしながら、スムーズに馴染める環境作 りを行っている		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本 人から学んだり、支えあう関係を築いている	気分の落ち込みがある利用者に対し、俳句作り等、楽しみを 共有することで共に支えあう関係を築いている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族に本人の様子を随時報告しながら、家族からの要望を含め、支援内容を、一緒に考え取りくんでいる		
31	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	できるだけ行事に家族も参加していただけるように、案内・連絡を行い、一緒に過ごす機会を持てるようにしている		
32	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人の方が面会に来られ帰園される際には、「ありがとうございました、またいらしてください」など一言かけ、本人と一緒に玄関まで見送っている		
33	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	グループワークや手伝い散歩等の声かけを行い、居室にこもらないよう、食堂で過ごしていただき、利用者間のコミュニケーションが取れるようにしている。利用者間でも助け合いの心が芽生えている。		
34	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	併設の施設に入所してある利用者には時々面会に行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
35	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望はケアプランの中に取り組み、他職員にもケアプランを見てもらいながら、同じ対応が取れるように、統一を図っている		
36	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの経過は毎日個人記録に書き込み状態把握に努めている。これまでのサービス利用は、入所時のフェースシートにて把握している。		
37	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	本人の一日の様子を個人記録に記録する事で、本人の状態がすぐわかるようにしている。いつもと違った様子が見られる時にはさらに詳細を記入し、個人別ファイル書き込むことで職員間での情報の共有化を図っている		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランをモニタリングしながら、経過や実施内容と評価を書き込んでいる。家族や職員間でその人に何が必要なのか意見を参考にしながら新しいケアプランの作成を行っている		
39	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の様子に変化が見られた時はケアプランの期間内でもケアプランの変更を行い、家族にもケアプランの説明をし、納得・了解の上サインをいただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個人記録に日々の様子を書き込み、気づきや工夫は別の個人ファイルに書き込み、他職員がいつでも見れるようにして情報の共有化を図り、新しいケアプランとつなげている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じ、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	介護予防や歩行維持の為にリハビリ指導を受けながら、本人のリハビリを行っている		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月2回、読み聞かせボランティアの受入を行なっている 年3回の消防署立ち入りによる防火避難訓練(利用者も参加)を実施している。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	朝倉高齢者筋力トレーニング事業(パワーリハビリ)を希望のある方に支援している		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1度、家族や地域の民生委員、地域包括センターの職員の方々と運営推進会議を行い協議している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医師による往診が月1回あるが、必要に応じて家族が受診を行っている。入所する以前からのかかりつけのある利用者は家族対応にて受診をされている。体調変化の見られるときには、すぐ連絡を入れ受診できる体制をとっている		

グループホーム ローズハウスいしづえ

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○ 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関による月1回の管理指導により、利用者の状態や近況報告を行いながら相談を行い、必要に応じ指示を受け、必要な医師を紹介してもらっている		
47	○ 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設サービスの看護師が定期的(週1回)に来て、日常の健康管理や利用者の状態を見ており、必要であれば家族へ受診依頼を行っている		
48	○ 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された時にはお見舞いに行き、様子を見たり、又家族から近況報告をいただいている。病院のソーシャルワーカーと早期退院に向けて連携を取っている		
49	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した利用者の家族とはできるだけ早い段階から今後のことを話し合い、状態悪化による救急車搬送の際はマニュアルに添って行えるように全員で方針を共有化している。		
50	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	現在できていない	○	入浴介助にチェア-式を考慮中 朝倉介護保険事業者協議会、グループホーム部会にて、ターミナルケアについて、研修を予定している
51	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから別の居室へ移り住む際には、グループホームの様子や問題行動の有無など、詳細を話し合い情報交換を行っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
52	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	充分配慮しながら行っている	
53	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めた納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者より訴えがあった時、お話を聞き、納得していただけるよう説明を行っている	
54	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	これまでの生活環境にそって、自分のペースで過ごしていただきながら、手伝いやグループワーク等で楽しめるよう支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	家族との話し合いで、月1回訪問 いしづえ荘と契約をしている。理髪店の利用や家族と共に外出の折に行っていたい	
56	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜きざみ 調理 盛り付け等の役割分担が自然に分かれ、職員と共にコミュニケーションをとりながら行っている	
57	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食事を摂っていただく事に重点をおき、嗜好は制限、スタッフが状態をみて出している。日曜日にお酒やビールを飲んでいただき、楽しみにされている、お酒やビールの飲めない方にはジュースを出している	○ 月1回外食がされる様にしたらいのでは、と考えている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○ 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自立排泄できない方は時間を見計らって介助を行っている 食事前に全員の方へ声掛けを行っている 昼夜のパンツ形態を変えている		
59	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりの希望により入浴日を決めている。又本人の希望があれば、いつでも対応を行っている。		
60	○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	定時、巡視等行ない、訴えのある利用者のある時は傾聴を行い、落ち着かれた後、休んでいただくようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○ 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのADLに応じた役割を持っていただき、取りくみをしている。利用者にしたい事を尋ねて、取りくみを行っている。		
62	○ お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人で管理できる方数名の人は、現金を持たれ、ご家族との外出時に買い物をするよう対応を行っている		
63	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりの希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は花壇の手入れ、水遣い等を兼ねて戸外に出ている。1Fディサービスとの交流もハビリティを通して行っている。		
64	○ 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している	外出可能な方はご家族と共に外出を自由にされるよう対応を行っている。	○	全員での外出計画をもう少し増やしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり手紙のやり取りができるように支援をしている	電話のかける内容を確認行い、取次ぎをして掛けていただいている 年賀状を(職員と一緒に)書いて出している	○	2ヶ月に1回の、「ふれあい通信」新聞に、利用者の言葉を一言添えて、同封し対応したい
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問されるお客様、本人の希望にて居室・和室等で、お茶を飲みながら、ゆっくりしていただくよう対応している		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を行い、利用者のケアに努めている		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物構造上2階である為、徘徊・転倒につながらないよう玄関は、施錠をしている。居室は自由に出入りできる様対応している	○	できる限り利用者把握に努め、開放できるようにする。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士で連携を取り合って、所在確認対応している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者と共に居室内整理を行い、危険な物がある時は、説明を行い納得していただいた上で、収納、お預りしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防火訓練を毎日夜勤帯で行なっている 全体訓練は年2回(消防署の協力で行っている) 薬は安全の為、スタッフが管理し、定時に与薬を行なう		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	施設全体で救急救命士の講習を受け資格取得した		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎日 21:20頃より宿直者と共に防火避難訓練を実施、又定期的に消防士の方に協力していただき、施設全体で取り組んでいる		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族との連携を密にしリスクへの理解を求めている		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し対応に結び付けている	上司への報告をはじめ、記録を活用し職員間で情報の共有を図っている。他部署・看護師との連携を図っている		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも見られるようしておき、薬セット係りを通じて、情報の共有に努めている		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多めに飲んでいただいたり運動不足の解消を図り対応している、又排泄記録を個人別に記録している		
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きを徹底している 夜間義歯洗浄を行い容器に保管している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による献立を基として、入居者ひとり一人の咀嚼・嚥下・健康状態に合わせ摂取、及び水分摂取量等を記録して対応している		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアル等の勉強会をしている インフルエンザの予防接種 食前のうがい手洗い ペーパータオルで対応 他マニュアルに添って		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	キッチンハイター等で消毒(まな板) 食器乾燥機での熱処理 毎日食材購入(配達時検品)をして新鮮で安全なものを使用している		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるよう、玄関や建物周囲の工夫をしている	案内板や窓ガラスに表示して親しみやすい置き物、花などを植えて育てている		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花クラブにより季節の花を生け、飾る 草花等を摘み、身近に愛でる		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席はほぼ決まっているが、周りにはソファを置いたり和室もあり思い思いに使っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ、自分の使用していた物を持ち込んでいただく様にお伝えする。家族の写真や仏壇などの、持込をしてもらっている		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室・館内は24時間換気扇を使用して換気に努めている。温度調節は状況に応じて対応している（個人差もあり衣類等でも調整している）		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、ナースコール、センサーマット等を利用し、転倒防止に努めている		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個人個人の理解力を把握し、ブライトを傷つけない様、気配りしながらも各々に役割を分担してもらい、スムーズにいく様側面からサポートしている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり活動できるように活かしている	ベランダよりバラ園が観賞できるようになっている。気候の良い時は一緒にバラ園の手入れをしている。ベランダにて洗濯物を干したり天候により外気浴をしている。漬物をつけたりプランターにて植物を育てたり出来る。		

.サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の
			利用者の 2/ 3 くらいの
			利用者の 1/ 3 くらいの
			ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある
			数日に 1 回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
		○	利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の 2/ 3 くらいが
			利用者の 1/ 3 くらいが
			ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	ほぼ全ての家族と
			家族の 2/ 3 くらいと
			家族の 1/ 3 くらいと
			ほとんどできていない

グループホーム ローズハウスいしずえ

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
		○	数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くない
100	職員は、生き活きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の 2/3 くらいが
			職員の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の 2/3 くらいが
			利用者の 1/3 くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の 2/3 くらいが
			家族等の 1/3 くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

園内の行事（夏祭り・歌謡ショー）に毎年2回、利用者と職員で出演している。その過程において衣装や振り付け、小道具を利用者と共に考え作り、準備の段階からグループホーム全員で取り組んでいる